

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		職員の採用当日には理念を伝え、取り組みや考え方を伝えている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		毎月御家族様にはリーダー及び管理者から短文ではあるが、自筆にて近況を伝える手紙を送る取り組みを始めた。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		中庭にブドウやバラを植え、地域の方と共に育てている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域の方々に当施設に親しみを持っていただけるように、ぼっかぼか音頭を作った。 運営推進会議で頂いた情報を繁栄し、地域との交流を深めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>ヘルパーの養成研修の受け入れ。企業の研修の場として受け入れている。管理者と計画作成担当者が、認知症サポーター講習を受けサポーターとなっている。</p>		<p>スタッフや地域の方々にも認知症サポーターの位置付けを理解してもらうと共に、認知症の理解が広まる様に取り組みたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価結果をカンファで伝え、日々取り組んでいる。スタッフがいつでも観覧できるようになっている。</p>		<p>自己評価を学びのテキスト代わりとしスタッフの育成に力を入れ、質の向上に取り組んでいく。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>現メンバーに声をかけ多くの会議の参加を募っている。評価への取り組みを伝え率直な意見をもらって繁栄している。</p>		<p>取り組みや実情を明らかにし、改善、向上に向けて取り組んでいける良い会議の場となってきている。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>利用者、家族により良い施設生活であっていただける様に、こまめに市に出向き、市町村担当者の意見を仰ぎ連携をとっている。</p>		<p>今後は包括支援センター及び社会福祉協議会との連携をとり、より良い支援に取り組んでいきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>関係機関とのやりとりの場をもうけ支援している。先々必要性のある方にはアドバイスを行なっている。実際に制度を利用されている方もいるため、学びの場になっている。</p>		<p>事例をあげて今後も取り組んでいきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を行っている。気付かず行っていないが、互いに評価しあえる環境を作っている。</p>		<p>管理者が現場にて、ケアの質の向上に努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>しっかりと時間を設けて行っている。 文章を読み上げるだけでなくわかり易い言葉を使い説明している。状態の変化がある時には、予測も踏まえ話し合っている。</p>	<p>小さな事でも話し合える関係作り、雰囲気作りに力を入れる。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員の受け入れをしている。 契約時に苦情窓口の説明行っている。 利用者の表情や何気ない言葉から感情・意向を感じ取り、日々理解し取り組んでいる。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>管理者、リーダーからの月に一度、自筆の手紙を送っている。毎月請求書にはおこづかいの明細、新聞を発刊し、生活の様子を伝えている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置をすることでご家族の意見をうかがえるようにしている。面会時にはお茶を出し、意見が言える雰囲気作りを行っている。運営推進会議にご家族も参加し意見を頂いている。ご意見はカンファで取り上げ話し合っている。</p>	<p>家族会の実施声かけ行っていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>カンファ時にはもちろん、ご意見箱の利用。 管理者は昼食時はユニットで取り、休憩を共にし小さな気づきも聞けるように心がけ繁栄している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>運営者及び日管理者は、必要性のあるユニットに入り、ニーズに合わせた対応を取り、工夫を行っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移動前には、移動先に出向く機会を多く持っている。 常に各ユニット合同での散歩や催し物等で馴染みになっている。</p>	<p>離職を最小限にするように今後も運営者と話し合い取り組んでいく。移動の職員には、早い期間での辞令を出し移動先での勤務を増やしスライドしやすくしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は常に勉強会の情報を提供し、掲示板を使用し声かけ、参加の機会を作っている。 勉強会の内容は観覧できるようになっている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターのケアマネ、社会福祉士と運営推進会議で会う機会があり情報の交換を行っている。		幅広く同業者との交流を持ち、さまざまな方向から情報交換できるようにする。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩場所は中庭、休憩室がありリラックスできる場の提供を行っている。暑気払い、忘年会はもちろん、親睦の場を多く持ちストレスの軽減の場を作っている。 意見箱の設置を行っている。		運営者と管理者は常に情報の共有をし、スタッフの働きやすい環境作りに力を入れている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は随時現場にこられ、状況を把握している。 個別面談などで職員との話の場を設けている。 常に管理者と話し合い現場に向上心を持たせている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談行ない状態、生活環境の把握利用者が今、何に困っているかを受け止めるようにしている。		センター方式の導入検討中。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時には家族の想いを聞く側になり、気持ちを受け止める姿勢や事業所として協力できる体制を知らせている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を受け止めニーズに合ったサービスの説明を行っている。 グループのケアマネ居宅介護支援センターのケアマネとも連携している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	生活に早く馴染んでいただけるように、今まで使用していた馴染みの物品の持込み、家族と話し合い面会の頻度の調節を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事、掃除等の場から人生の先輩として意見をもらう。 利用者がスタッフの肩を揉んでくれたり、休憩中には毛布をかけてくれるなど、共に生活している関係作りが出来ている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時のコミュニケーションを取り、利用者、家族本位での支援を心がけている事を伝え、信頼関係を築きあげることで、協力体制ができています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者や家族との繋がりや深さを理解し支援している。 面会時には居室で共に過ごしていただいたり、衣替え時には家族と利用者で行っていただき、家族の時間を作っている。 年賀状、暑中見舞いなど、手紙を出し繋がりを保つ。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月の墓参り、行きつけの美容院の継続。 地元の方が集まる催し物の参加。交流の場を多く持つ。 選挙も継続出来るようスタッフ対応で行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相性を理解し、トラブルを避けるよう支援。居室での雑談が出来ると関係作り、共に支えあう関係作りが出来ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も情報の提供、相談に乗っている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴はもちろん、日々の生活の言葉や、表情からも思いを受け止める努力。家族から生活暦を聞き想像力を働かせ支援している。		センター方式の使用検討中。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族とのコミュニケーション時、昔の生活暦や食の嗜好等把握に努め、体調不良時の食の増加などに繁栄している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各利用者に担当が付き、日々の生活の中の小さな出来事からも、出来ること・出来ないことを見つけ出し、情報の共有を行ない支援し良い暮らしに繋げている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が本人、家族、医師、看護師からの情報を集め月次にまとめ計画作成担当者と話し合い介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状況に合わせた対応や見直し変更を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実践を月次にまとめている。 個別記録やカードックスを使い日常生活の記録をし、その日の出勤者は勤務前に様子、体調などを把握し勤務につく。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間の健康管理に努め医師、看護師と医療連携を図っている。週に1度の往診の他、状況に合わせスタッフ対応での受診を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議には民生委員の参加、社会福祉協議会からボランティアの参加があり協力して頂いている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅介護支援のケアマネとの連携があり、必要に応じ対応できるような体制になっている。 月1回の理美容、マッサージの提供行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センターの方に参加してもらい、情報の交換を築いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの医療との連携を取り、必要、状況に合わせた往診、病院への受診変更を行っている。 受診の際には、サマリー等を用意し受診後には家族との情報の共有をしている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>往診の医師が利用者本人を理解した上で、相談にのっていただき、必要に応じ病院を紹介して下さる。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>24時間体制で医療連携の病院と健康管理行っている。薬剤師とのつながりもあり、副作用などの助言いただく。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>お見舞いを兼ね、医師、看護師、家族から情報や状況を聞き把握し、施設での生活が1日でも早くできるよう相談を行っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>早い時期からの予測も踏まえ、ユニットで今出来る対応を話し合い、家族の意向の確認を行い医師と連携をとっている。当施設で出来る終末期に向けたあり方は契約時に説明している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人や家族の意向を踏まえ、家族、医師、看護師、スタッフが連携を取り今後の対応等話し合いながら、本人にとって一番のケアの実施している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他、事業所へ移った場合情報の提供を行ない、今までの生活の継続を取り入れられるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>理念にも尊厳を掲げている。勉強会でケアの質の向上。野外外出時のプライバシーの配慮。個人ファイルは鍵のかかる棚で管理を行っている。</p>	<p>スタッフの質の向上、育成に努めている。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個々にあわせた声かけ対応を行ない、仕草や声のトーン表情から読み取る努力、声かけは質問系で行ない自己の決定を促している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者本位のケアであることをリーダーが常に話している。基本的な1日の流れはあるが、個人の今したいことを尊重しペースを守っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>TPOに合わせおしゃれを楽しむ。通いなれた理髪店でカットをしている。家族と連携を取り今までの装いを考え、その方らしいおしゃれを支援している。</p>	<p>家族と共に季節ごとの入れ替えを行ない、情報交換の場を多く持ちたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>盛り付けや片付けは共に行ない、食事も同じテーブルを囲い会話を楽しんでいる。嫌いなものは代わるものに変えている。</p>	<p>利用者の力で出来ること、出来ないことを多く見極め支援していけるように努力している。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者の力に合わせ、居室管理スタッフ管理と分けているが、日常の中で楽しんでいただいている。飲み物は本人の希望を聞いて提供している。買い物時は利用者の希望に応じ購入している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>安易にオムツ、パットを使用せず、排泄パターンを見つけ出し、ポータブルトイレの使用や誘導行ない、失禁を防ぐよう支援している。</p>		<p>カンファ時に話し合い統一したケアを行いながら排泄パターンの確認を行っている。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週に3日の入浴を基本としているが、日々の状態に合わせて日を変えたり、シャワー欲を行うようにしている。仲の良い人は一緒に入り、入浴剤、歌、菖蒲等で入浴を楽しむ。</p>		<p>その方の好みの温度調節を行っている。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>寝れない方には暖かい飲み物や小さなおにぎり等の提供を行ない、話の傾聴を行ない安心が持てる配慮を行っている。その方に合わせた昼寝などを取り入れ、メリハリをつけている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>得意分野の発揮の場、やってもらうのではなく、したいという気持ちを大切にしている。</p>		<p>その方らしい楽しみを取り入れた小単位の外出を多く取り入れたい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物の機会を多く取り入れ自分の好みのものを選び力に合わせた支払方法の支援を行っている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物、散歩は日常的に行ない、利用者の状況に合わせての外出、季節を楽しむ機会を多く取り入れている。外食、地域の催し物等多くの外出を取り入れている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>家族だけでは難しい1泊温泉や旅行の取り組みを行った。その方に合った外出を取り入れている。</p>		<p>ユニット単位やレベル分け等も取り入れ、旅行の機会を増やしたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節折々の絵手紙を送っている。電話使用時はスタッフは離れ見守り行うなど会話を楽しめる支援を行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日中は玄関の施錠を行っておらず、いつでも訪問できるようにしている。訪問時には心地よく受け入れ、居室での家族との食事など楽しんでいる。		詳細なイベントのスケジュールなどを事前に知らせる配慮行いたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。 状況によりやむ終えない場合には会議を開き家族の了解のもと行っているが、定期的に必要性を考え少しでも早く解除できるよう検討している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	立地条件により危険性がある為16時から翌日10時までは施錠しているが、他の時間帯はしていない。家族には了解得ている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	十分なスタッフの人数配置行っており目配り、気配りできている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、薬はステーション管理行っているが、その方に合わせた状態を把握し、自己管理もしくは、日中のみ居室で使っていただくなど取り組んでいる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各ユニットにマニュアルがあり、常に観覧できる状態である。利用者個々の危険性をスタッフは理解しており対応している。		自己報告書、ヒヤリハットの意義について職員にしっかりと説明し取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	管理者、リーダーより日々常に学んでいる。医師、看護師、薬剤師より応急手当も学び、対応行っている。 年に1度、消防隊が来られ応急処置を学んでいる。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1度の避難訓練があり、マニュアルに沿ってスタッフが連携が取れる状態になっている。		地域の方々と話し合い協力体制取れてきている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日々の生活の中で変化に応じたリスクを発見するよう努め、家族には日々の生活を伝えながら話し合っている。		カンファ時に統一したケアを行えるよう話し合っている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、排便状態、顔色、入浴時の全体確認、日々の小さな変化を見逃さず情報の共有を行っている。 必要に応じ、医師、看護師に相談報告し、対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の必要性に対し、医師とスタッフは連携が取れ、理解している。副作用にも薬剤師から説明があり把握し、変化時には連携が取れ対応している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック行っている。毎日の適度な運動、水分摂取を行うと共に毎日乳酸菌を含んだ飲食の提供を行い、服薬だけに頼らないケアを行っている。 便秘薬の調節を医師と行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの促し、観察、介助を行っている。 義歯は毎夜洗浄行う。 状態に応じ、スタッフ対応にて歯科受診行う。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った1回の量、回数などを考慮し食べやすいように工夫して栄養が確保できるよう支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルがあり、季節に応じ流行する感染症に対して強化を図っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチン用品は毎日消毒を行ない、こまめな掃除、衛生管理を行っている。 管理者は食品衛生責任者の資格を取得している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、建物の周りには木々やベンチ、草花を植えるなど雰囲気作りを行っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各場所には時折々の花が飾られたり、カーテンで風や光の調節、和室にはいつでもくつろげるように長座布団を置くなど工夫している。		カーテンや障子、スライド式の屋根で光の調節を行っている。ユニットの特徴を活かしたカレンダーの設置を行っている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファや和室があり、富士山や中庭を眺めながらお茶を楽しむ場がある。一人でのんびりと昼寝をしたり、くつろげる空間がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今まで使い慣れた物品を持ってきていただき、その方らしい居室作りを行っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フローア、各居室に温度計の設置行ない、常に温度調節を行っている。随時換気を行ない、空気の入替えを行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内の環境はバリアフリーであり、浴室、トイレ内各個所で自立を支える工夫がされている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	力に合わせた張り紙の設置を行ない、仕草などから何気ない言葉で自立を促す等、気配りを行っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ、中庭などでの洗濯干し、草取りやお茶会など、日常的に使用している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今までの人生を受け止め、今日一日がその人らしく自然に時が流れるような暮らしであってほしいと願い、支援しています。今持っている力を見出し、発揮・活躍できる場の提供を行ない自立を目指し、スタッフも共に過ごし、日々の中から利用者から学び、尊厳を持ち接する。施設内での生活にとどまらず社会との繋がりが保てる様に地域の方々との関わりの維持。この当たり前の様な生活を支える為に日々スタッフの育成に努めています。利用者本位のこの支援は「理念」そのものであり、認知症介護の基盤であると考え取り組んでいます。